

第50回

共に学び 共に楽しむ

いなみ野祭



第50回目の「いなみ野祭」が、11月の18日（土）・19日（日）の両日、開催されました。幸いコロナも落ちつき、入場制限なしの開催でした。大学・大学院のクラブのみなさんが、演技に、展示に、と日頃の練習の成果を発揮して、大いに盛り上げてくれました。同窓研の「夏のつどい」に続いてのビッグイベントで、舞台発表、展示発表と併せて、久しぶりの友との楽しい出会いの場ともなりました。



開会 林学園長



福岡いなみ野祭実行委員長



野北東播磨県民局長



「パソ友」（同窓研）が「くすのき賞」を受賞、おめでとうございます



開会式及び演芸大会は大講堂で行われました



いなみいの17



コーラス



マジック



英語劇



南京玉すだれ



太極拳



陶芸



園芸



関西圏・首都圏シニア大学校交流事業の参加

2月15日(水)に、第9回シニア大学校交流事業が神戸市兵庫区中之島の「兵庫県立兵庫津ミュージアム」で開催され103人の参加がありました。同窓研も平成24年度から毎年参加していますが今回は11人が参加しました。

【開会あいさつ】林省吾理事長あいさつ

【参加校の取り組み・事業紹介】

- ・ 認定NPO法人 大阪府高齢者大学校 副理事長 小野榮治 氏
- ・ 徳島県シルバー大学校大学院OB会 会長 松本妙子 氏
- ・ 兵庫県生きがい創造協会 生涯学習部長 多治比 寛 氏

【基調講演】

演 題「関西圏の地域と兵庫津(ひょうごのつ) ～街かどの歴史を考える～」

講 師 田辺 真人 氏 県立兵庫津ミュージアム名誉館長

園田学園女子大学名誉教授

阪神シニアカレッジ学長

【施設見学】初代県庁館・ひょうごはじまり館展示室、ダイナミックシアター



兵庫県生きがい創造協会の事業紹介では、同窓研の活動も紹介されました

(R4年度)

地域活動推進説明会『地域のとびら』

2月3日(金)の午前(10:00~11:30)、いなみ野学園大講堂で、卒業を前の大学4年生対象に、この『地域のとびら』が開かれました。名前の通り、今後、卒業してからも、是非、地域活動を続けて欲しいこと、また、これから是非始めて欲しいこと、その参考に地域活動(ボランティア活動)に取り組まれている3校が実践報告をされました。いざなぎ学園大学、阪神シニアカレッジ、いなみ野学園の3校で、1校20分が発表時間です。



地域活動支援センターの運営サポーターであり、また、同窓研副会長でもある中納幸夫さん(写真右)が、司会進行役を務められました。

初めは、林省吾生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長(写真左)の「開会のあいさつ」です。

卒業される4年生のみなさんに、「発表の3校の取り組みをヒントに、是非、地域活動に積極的に関わって欲しいです」とのお話でした。



実践発表の最初は、淡路島のいざなぎ学園大学から。

「淡路いいとこ残し隊」の3名(津田昌弘さん・上田貴一さん・瀬合道子さん)が、「知らなんだ淡路 淡路再発見 1, 2」の活動報告をされました。

「淡路にこんなええとこあったんや、こんないわれがあったんや」、でも「知らなんだ」。それなら、私たちに淡路の魅力伝えようと始めた取り組み。「淡路七福神」、「淡路島の日本遺産」、「家の近くの淡路のええとこ」を、その情景や情報を集めて、同じ仲間のいざなぎ学園生へ紹

介しようと始めたとのこと。

その翌年には、淡路の伝統産業や地場産業(「淡路島玉ねぎ」「淡路島線香」「淡路瓦」「淡路人形浄瑠璃」「伊弉諾神宮」)に焦点を当てて、それを紙媒体の報告書だけでなく、ユーチューブに上げて発信するという活動に発展させる。動画もインパクトがあり、伝えたいことがしっかりとわかる素晴らしい取り組みでした。





続いては、「阪神シニアカレッジ「くれよん「10」」の久保純三さん（支援者として柘田義一さん・近藤哲子さん）の報告です。

くれよんの色のようにそれぞれの「色」を持つ仲間10人が、自分の特技や趣味を生かしながら、福祉施設や老人会などでボランティア活動に参加している報告。歌やオカリナ、ハーモニカ、ミュージックベル演奏、また、紙芝居、朗読、マジック演技などを披露し楽しんでもらう取り組みでした。

「無理しないで、楽しく、できる人ができる時に」をモットーに、訪問先のみなさんと一緒に楽しいひと時を交流することが活動の中心。無理なくやりながら、一緒に楽しもうがいいですね。

「来てくださってありがとう」とか「来年も是非きてください」とか「毎月でも来てほしい」とか、訪問先の方々からも評判がよく、10人の仲間の反応も「目的に向かって練習したので、つながりができた」とか「チームワークがよくなるのを肌で感じ、充実した時間を過ごせた」とかの手応えもあったそうです。

訪問回数を年7回目標にがんばっていきたいということでした。



最後は、いなみ野学園の「マジックサークル「てっぺん」」の報告です。

初めに田中利幸さんがマジックの腕前を披露しました。その後、船曳和美さんの発表です。パソコンを操作するのは光田守さん。

マジックサークル「てっぺん」は、去年の令和4年に県から「くすのき賞」を授与されました。10年余りのボランティア活動が評価され、今回の発表に至ったとの



ことです。そして、東日本大震災後に3年間東北へ慰問訪問を続け、そこでの出会い別れ、同じ震災体験した者同士のつながり、更には津波被害と言う大変な体験談を聞かせてもらったの交流会など、そこで得た「ボランティアの大事さ」を実感したこと。それが、マジックサークル「てっぺん」の取り組みに大きなインパクトとなり、その

後、地域でのボランティア活動にも積極的に関わり、今につながっているとの報告でした。

最後に、マジックで「何でやる、どうして?、へーえ!」と感してもらえ、楽しんでもらい、面白さを一緒に体感してもらえれば最高のしあわせ、と船曳さんは話されていました。

以上の3校の実践報告の後、コメンテーターの廣岡 徹先生（元兵庫教育大学大学院教授）が「取り組みの講評と地域活動のすすめ」についてお話をいただきました。

まず、それぞれ3校のネーミングについてを。「いざなぎ学園大学は「淡路いいとこ残し隊」、阪神シニアカレッジは「くれよん「10」」、いなみ野学園は「マジックサークル「てっぺん」と、ユニークで印象に残るネーミング、これがいい」と話されました。「親しまれる名前はそこに思い込められている証、インパクトがあるのが素晴らしい」とのこと。

そして、「グループは少人数から30名もの大人数の違いはあっても、それぞれにできることを考えて協力し合えば、どんなこともできる。是非、この活動を継続して行って欲しいです」と話されました。



1時間半、今回の発表は、卒業前の4年生にいい刺激となったのではと思います。ボランティアを、くれよん「10」のように、「ムリなく、楽しく、できる人ができる時に」をモットーにすれば、誰でも参加ができそうです、やれそうですね。地域活動に、ボランティア活動に、どうぞ、卒業されるみなさんの力を存分に発揮してもらいたいものですね。

今回の発表で、少しでもやってみようとなれば、うれしいことです。発表者のみなさんご苦労様でした。聴講生のみなさん、どうぞ新たな一歩を始めましょう。